

年間第22主日

マルコ7・1-8、14-15、21-23

「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである」

マルコ7.15

皆さん、今週の日曜日の福音書では、ファリサイ派の人々のように、外見を清潔に保つとしても、心の清さを忘れている人々の偽善について語られています。ファリサイ派の人々はイエスの弟子たちが儀式的に手を洗わずに食事をしているのを目撃しました。そこで彼らは、「**なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか？**」とイエスに尋ねました。ファリサイ派は表向きはモーセの律法特に従っているユダヤ教の一派です。彼らは、人よりも律法の知識に喜んで優れていることを自慢し、人を貶めたり、悪口を言ったりしていましたが、実際には、彼ら自身律法を守っていませんでした。これが、イエス様が彼らを「偽善者」と呼んだ理由です。

イエスの時代と現代とでは、状況はあまり変わっていないことがわかります。私たちは、ユダヤ人の律法にあたるようなものを持っていませんが、中々私たちのやり方には偽善があると思います。それで今日一緒に自問して見ませんか？

私たちの心はどうでしょうか？私たちの魂はどうでしょうか？服をきれいにするように、魂をきれいにする時間をとって、神の前にふさわしい姿になっているのでしょうか？神様が私たちに期待しているのは信仰です。私たちはまず、清潔で純粋な生活について考え、次に、きれいな服を着て神のそばに行くことを考えるべきです。この2つのことは両立します。互いに補い合い、神に喜ばれるものです。

